



◆ミニ水槽 北の魚たちを展示。今月は、金魚展で珍しい金魚たちが泳いでいます。



一般的な水族館では、水槽内の展示物で季節の変化を再現することが難しく、異なる種類の魚に変えてもなかなか季節感を演出することができません。

サケのふるさと館は窓越しに季節の変化を感じることができ「千歳川水中観察室」を備える全国でも珍しい水族館として知られています。

観察窓の向こう側は清流千歳川の水中です。春は北の海に旅立つサケの稚魚の群れ、夏はそ上してきたサクラマスやウグイの産卵、秋はサケのそ上、冬はサケの産卵や渡り鳥の潜水など、千歳川を生活の場とする生き物たちの四季折々の姿を見ることが出来ます。

これからはサケのそ上時期で

す。雨が降り水が濁っている日にサケのそ上する姿が多く見られます。この時期の水中観察は、雨上がりの朝がおすすです。

12月ころには、川の中のサケの産卵が観察できるようになります。この時期になると、産卵するサケのペアの数が日増しに多くなります。最盛期には観察室のどの窓からもたくさんのおペアが見られます。産卵はサケの一生で最後の大事な仕事。最後の力をふりしぼり産卵する姿に感動します。産卵のようすは、1月末ころまで観察できます。

観察室の窓から見る千歳川水中の映像は、サケのふるさと館のホームページ中「ライブカメラ」でも見ることが出来ます。



サケのふるさと館では、魚を見るだけではなく、実際に触れて親しむ体験ができます。子どもたちに人気のあるこのコーナーがタッチプール（表紙写真）です。

通常、タッチプールの生き物は、人の手に触れられるため弱ってしまい、この水族館でも飼育に苦労します。

サケのふるさと館のタッチプールの魚たちは、えさで人に慣れているので、手を入れると魚たちの方から寄ってきます。魚たちが元気でとても楽しいコーナーです。



◆支笏湖槽 支笏湖の魚であるヒメマスやニジマスなどが悠然と泳いでいます。



◆千歳川溪流槽 千歳川の上流から下流までの魚を観察できます。



館内には、ヒメマスやアママスなど支笏湖に息を止める魚たちが集まる支笏湖槽、千歳川の上流から下流に分布する魚たちを流れに沿って観察できる千歳川溪流槽があり、千歳川流域の魚の生態を学ぶことができます。

このほか、千歳川の四季やサケの一生を紹介するサーモンムービー、サケの生態やインディアン水車の歴史を展示するサケものしりプラザなどがあり、サケについて学ぶことができます。また、ゲンゴロウやミズカマキリなどの水生昆虫、カラフルな色のザリガニなどの甲殻類、サンショウウオなどの両生類を

サケのふるさと村教授会

サケのふるさと館を支援するボランティアの方でつくる会です。館内での案内のほか行事の手伝いなど36人の会員が積極的な活動をしています。「千歳の市民大使」としてサケのふるさと館や行事の奉仕活動に参加してみませんか。

展示したコーナーもあります。こうした最新の展示情報はホームページやブログなどでお知らせしています。